

教 科	数 学	科 目	数 学 A
履修条件 対象生徒	必修 デザイン科 2 学年		
学習目標	場合の数と確率、図形の性質について理解を深め、基礎的な知識と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。		
学習方法	〔授業〕 授業を集中して受けることが大切である。授業では、教科書の内容だけでなく、別解や発展させた内容の追加説明など多くの重要事項が説明される。授業を真剣に聞き、理解できない所はその日のうちに質問し解決しよう。 〔家庭学習〕 予習と復習を毎日しよう。1 時間で進む授業の内容は、教科書 2 ～ 4 ページ程度である。予習をして、分からなかった内容をチェックしておき、授業で解決するようにしよう。また、その日に習った内容を、その日のうちに、本当に理解できているかを確認することが大切である。日々の復習を通じて「分かる」状態から「解ける」状態に昇華させよう。 〔補習・その他〕 補習では教科書より難易度の高い問題を取り上げ、ハイレベルな問題を解くことによって、さらに理解を深める。		
学習計画 と ねらい	< 2 学期中間考査まで > 数学 A 第 1 章 場合の数と確率 1 集合と要素 2 集合と要素の個数 3 場合の数 4 順列 5 組合せ 6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行とその確率 9 条件つき確率と乗法定理 10 期待値 < 学年末考査まで > 数学 A 第 2 章 図形の性質 1 三角形と線分の比 2 重心・内心・外心 3 メネラウス・チェバの定理 4 円に内接する四角形 5 円の接戦と弦のつくる角 6 方べきの定理 7 2 つの円 8 作図 9 空間における直線と平面 ○ 集合、順列・組合せについて理解し、「もれなく、重複することなく、効率的に」数えることができるようになるとともに、図や表などを効果的、能率的に用いて問題を考察し処理できるようにする。 ○ 身近にある例を基に、試行や事象の考え方を明確にして、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。 ○ 基本的な図形の性質についての理解を深め、図形についての数学的な見方や考え方を豊かにする。 ○ 図形の性質を論理的に考察し、表現する能力を身に付ける。		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 基本的な概念や法則を理解している。 ・ 数学的に表現や処理をする技能を身に付けている。	・ 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的に表現する力を身に付けている。	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養おうとしている。
評価方法	① 定期考査では問題を観点別に分類し、評価する。 ② 内容の理解を深めるために小テストを行う。 ③ 授業態度においては、出席状況、演習問題の板書等を評価に反映させる。 ④ 課題や提出物を定期的に確認する。 以上を総合的に判断して評価する。		